CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE 広島 2016年版

宇品東地区社員駐車場用地　東地区社員用立体駐車場新設（1期）

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。　　欄に数値またはコメントを記入

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳								
■1.「地球温暖化対策」の推進											
1.1　建物の熱負荷抑制											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能
	0.0	0.00	LR1	エネルギー	1	建物外皮の熱負荷抑制				
小計	0.0	0.00								
1.2　自然エネルギーの利用										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用				
小計	0.0	0.00								
1.3　設備システムの高効率化										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。	0.0	0.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計	0.0	0.00								
1.4　設備システムの効率的運用										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.1	モニタリング
	3.0	1.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.2	運用管理体制
	3.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.1	モニタリング
	3.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.2	運用管理体制
小計	3.0	0.63								
1.5　資源・マテリアル対策										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。	0.0	0.00	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	3.0	0.18	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	2	雑排水等利用システム導入の有無
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	1.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	0.0	0.00	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
	4.0	0.17	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	2.8	0.38								
1.6　ライフサイクルCO2排出率										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計	0.0	0.00								
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	2.9	0.52								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1　温熱環境の向上										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.52	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出				
	2.0	0.26	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	1.0	0.23	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善		
小計	1.3	0.97								
2.2　交通負荷抑制										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	3.0	0.03								
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	1.3	0.28								
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1　耐用性の向上										
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	1	耐震性（建物のこわれにくさ）
	3.0	0.13	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	2	免震・制震・制振性能
	3.0	0.19	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	1.0	0.19	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	0.0	0.00	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	0.0	0.00	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	0.0	0.00	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	0.0	0.00	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	2.6	0.67								
3.2　設備の更新性										
(コメント)　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。	0.0	0.00	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	0.0	0.00	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性
	3.0	0.25	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.25	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.50	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	0.0	0.00	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保
小計	3.0	0.33								
3.「長寿命化対策」の推進の評価	2.8	0.21								
■重点項目の総平均（上記3項目）	2.4									